

## 日本気象学会役員選挙の実施方法の私案

小倉 義光\*

私のまわりの人達があまりにも多忙そうなので、何かお手伝いできればといった気持ちから、今回日本気象学会の理事に立候補しようかと思いました。それで前回(1988年)の選挙公報と選挙結果をみていて、選挙の実施方法に疑問が生まれました。昼食後の雑談のおり、この疑問点を浅井理事長にお話した所、まず選挙管理委員会の意見をきいてほしいとのことでした。それで、櫃間委員長に手紙を書きました結果、同氏から、この問題は理事会の審議事項であると思うが、まず「天気」に投稿して広く会員の意見を求めたらという示唆を受けました。なんだか軽い気持ちの発言が大ごとになってしまいました。行きがかり上投稿します。

この起こりは、選挙公報の候補者リストには各候補者名のすぐ後に推薦者名も載せてあることです。というのも、ある推薦者グループは長官を除く気象庁トップと大学教授が名を連ねて強力無比、しかも関東地区定員13名きっちりを推薦しています。これだけ偉い方々が衆知を集め慎重に協議した結果、関東地区の理事はこれが最強チームなのだといわれると、事大主義やら長いものに巻かれる主義やらの傾向が無くもない私などは、たちまちゴキブリホイホイとその候補者に投票してしまいそうになります。まして選挙公報には候補者についての十分な情報が与えられていないから、この強力グループに推薦された候補者以外の候補者の方がより適任だと判断する根拠も見つけ難く、ますますホイホイ族になりかねません。選挙結果をみて、このグループに推薦された候補者の得票数と他の候補者のそれとの差が不自然なほど大きいと感じました。

誤解を避けるために早速つけ加えると、気象学会の運営に支障が無いように、この推薦グループの方々は貴重な時間をさいて、逃げまわる人を説得して、とにかく定員数だけの立派な候補者を揃えたと想像しています。現在の理事が不適任だなどという気はもちろん毛頭ありません。ただ前述の得票数の段差が気になるのです。

この点を改良する手っとり早い方法は、推薦者名を戴せないことでしょう。しかしもっと抜本的に必要なのは、現在の性格の選挙管理委員会ではなくて、次のような責任と権限を持った nominating committee (以下コミティーと略記)を理事会が任命することだと思います。その責任は有権者に候補者名簿を提示することです。まず候補者名簿のあるべき姿は、候補者が個人として学会役員に適格であることはもちろん、全体として候補者の所属機関や専門分野や年齢層等の点でよくバランスされていること、今後学会の活動が活発化すると思われる分野及び従来の気象学からみて周辺領域で、学会への寄与が期待される候補者を含むこと、そして最も重要なのが、有権者に充分な選択の余地があるように定員の少なくとも1.5倍くらいの数の候補者を含むことです。コミティーの権限は、自薦・他薦された人といえども、他にもっと適当な候補者がいると判断されたときには、候補者としていないということです。実際上こうしたケースは無いと思いますし、自発的に候補者になって下さる方のサービス精神は大いに尊重されるべきでしょう。

候補者名簿を作製するという事だけでは、現在の管理委員会あるいは上記推薦グループがしてきた仕事と同じですが、その名簿作製のプロセスが違います。コミティーの最初の仕事は、某月某日を締切日として、全会員から自薦・他薦の候補者を募集することです。他薦の場合は本人の内諾を得ておくことは常識でしょう。そして締切日が過ぎて充分な数の候補者が揃わなかった場合には(これが最も起り易い)、それこそコミティーが慎重審議の上、適当と思われる方に声をかけて候補者になって貰います。ここが心情として少し抵抗を感ずる所かも知れませんが、もともと理事になるのは余分な仕事なのに、その上落選するかも知れないのに出てくれというのですから。しかし選挙で人を選ぶという方法をとる以上は複数の候補者が居るのが原則です。落選すれば只の人になる国会議員ではなし、私自身は落選をあまり気にしていません。ここで提案した方法が受け入れられるか

\* イリノイ大学名誉教授・日本気象協会顧問。

どうかはどれだけ多くの人が候補者になってくれるかに依存します。日本気象学会の正式の機関である nominating committee が自分の見識・実行力・サービス精神を高く評価し要請してきたのだから、落選するかも知れないが、ひとつ候補者になるかという雰囲気になれば、いいがと思います。

こうして候補者を選び、詳しい履歴書をつけて候補者名簿が書き上がります。履歴書は単に過去の勤務先を列記するだけでなく、professional にどのような活動してきたまでを含めるのが望ましいのですが、若い人達にもぜひ理事になってもらいたく、その場合履歴書が短いのは

当然です。名簿をつくる段階で候補者から正式に承諾者を貰っておきます。いうまでもなく、この名簿には、どのようなプロセス（自薦・他薦・コミティーからの要請の別）で候補者が選ばれたかは全く書いてありません。すべての候補者はコミティーが選んだ人です。

日本気象学会の現状にうとく、的はずれのことをいったかも知れません。しかし理事は名誉職でもなければ、雑用係でもありません。自分たちの学会、お互いのための学会、世界と結ぶ学会の運営をおまかせする理事です。どうすればベストの人になってもらえるか、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

## 第16回「リモートセンシングシンポジウム」講演募集

**主催：**計測自動制御学会

**企画：**リモートセンシング部会

**協賛：**応用物理学会、海洋科学技術センター、海洋気象学会、画像電子学会、漁業情報サービスセンター、システム制御情報学会、資源観測解析センター、精密工学会、地震学会、テレビジョン学会、電気学会、電子情報通信学会、土木学会、日本海洋学会、日本火山学会、日本機械学会、日本気象学会、日本気象協会、資源・素材学会、日本航空宇宙学会、日本写真学会、日本写真測量学会、日本測量協会、日本地質学会、日本林業技術協会、日本陸水学会、日本リモートセンシング学会、農業土木学会、物理探査学会、リモートセンシング技術センター、Tokyo Chapter of IEEE Geoscience and Remote Sensing Society

標記について、下記要項によって一般講演の募集をいたしますから、ふるって応募されるよう希望します。

**期日：**平成2年10月4日(木)、5日(金)午前〔特別講演、一般講演、懇親会〕

なお、5日午後は研究会を予定しています。

**会場：**機械振興会館〔東京都港区芝公園3-5-8〕

**特別講演：**10月4日(木)午後

地球構造のリモートセンシング・その先端技術と問題点

(1) 科学・防災面からの探査・研究

**講師：**浜田和郎(国立防災科技セ)

**一般講演申込締切：**平成2年7月16日(月)

**講演申込方法：**A4判用紙に下記事項を記入し、学会事務局あてお申送ください。1)題目、2)発表者氏名(登壇者に○印)、3)登壇者の連絡先と所属学協会名、4)400字以内の概要、5)講演分野(下記①～③の該当分野から1つずつ選んで記入してください)、6)原稿枚数(2ページか4ページの指定、1)、2)については英文名も併記してください。

**講演分野：**①(ハードウェア、ソフトウェア)、②(応用、基礎)、③(可視、赤外、マイクロ波、その他)

**講演の予稿集：**講演時間は1件20分とし予稿集はオフセット印刷で1論文1,480字詰原稿用紙2ページまたは4ページとします。原稿用紙は申込の後、学会事務局より送付いたします。

**講演原稿の締切：**平成2年9月5日(水)

**参加費(予稿集代金)：**当学会および協賛学協会会員6,000円、学生3,500円、一般7,500円(消費税込)

**講演申込先：**☎113)東京都文京区本郷1-35-28-303  
(社)計測自動制御学会リモートセンシングシンポジウム係  
電話(03)814-4121 F A X (03)814-4699